令和４年度　学校評価　自己評価書

あま市立美和東小学校

１　総括

（１）教育目標

校訓を「豊かな人間性をもち、心身を鍛え自己を磨き上げる子」とし、生きる力を支える〔確かな学力〕〔豊かな心〕〔健やかな体〕の調和のとれた児童の育成を図る。

（２）本年度の重点努力目標

ア　生き生きと学び合う子どもの育成

- 「やればできる」を信じて何事にも挑戦できる子どもを育てる。
- 「つなぐ　つながる　東っ子」を合い言葉に、異学年交流や地域の人と関わる機会を通して多くを学び、自分を見つめ、考えを深め高めていく子どもを育てる。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。

イ　開かれた学校づくりの推進

- 家庭・地域との連携を大切にし、安全・安心で開かれた信頼される学校づくりに努める。
- 学年通信やホームページ等をはじめ折々の懇談・家庭訪問などを通して、学校の状況や取り組みを家庭や地域社会に知らせ、連携を深める。

ウ　活力ある教職員と働き方の見直し

- 情熱と向上心にあふれ、子どもとともに学びながら成長し、努力をほめ、不足を励まし、個性やよさを伸ばす指導をするチーム力を生かした教職員集団を形成する。
- さまざまな情報を教職員で共有し、共働して問題解決できるようにする。
- 会議資料を事前に配付し、会議時間の厳守、時間の短縮化や会議の精選に努める。
- 業務の棚卸しと見える化を推し進め、協力体制を整え、処理の円滑化と業務の効率化を図る。

２　自己評価の実施体制

(1)　調査時期　令和４年１１月２９日～ １２月５日

(2)　調査項目　別紙アンケート参照

(3)　調査対象　有効回答者数／対象者数

・児童　２９１名／全２９３名　・保護者　２８７名／全２９３名　・教職員　１７名／全１７名

３　調査結果

別紙アンケート結果参照

４　考　察【児童、保護者、教職員、地域等の総括的考察】

（１）児童の評価

- 全体を通して、肯定的な意見が多く、学校生活において満足と感じている児童が多い。
- 「私は、学校で楽しく生活できています」「学校での学習や生活を通して自分が成長していると思います」に対する肯定的回答（そう思う・どちらかといえばそう思う）が 92%である。しかし、「私は休み時間には友達と一緒に過ごすことが多い」では、肯定的な回答がやや少なかった。今後、友達との関わりを多くもつように見守っていく必要があると考える。
- 「私は学校のきまりや約束をきちんと守っています」「悪口をいったり、人を傷つけたりしないよう、言葉づかいに気をつけています」でも、肯定的回答が 90%を超えている。今後も、教職員のきめ細やかな観察により、いじめ等に対する早期発見・早期対応・早期解決につながるよう進めていきたいと考える。
- 「授業中、先生はわかりやすく教えてくれます」「私は授業中、先生の話や友達の話をしっかりと聞いています」では、肯定的回答が 95%であった。教職員とともに学習に前向きに取り組んでいることがうかがえる。

（２）保護者の評価

- 質問に対して肯定的な意見が多く、子どもが学校生活に満足していると感じている保護者が多いことがうかがえる。

・　「学校は、学校のきまりや約束を守る態度を育てようとしている」「先生は、学校に行ったときや電話での対応がていねいである」では、96%で非常に高かった。学校や教職員の取組に対して保護者が理解していると考えられる。
・　「子どもは進んであいさつしている」「子どもは先生や地域の人に進んであいさつしている」に対して肯定的回答がやや低く、コロナ禍の影響が考えられる。

（3）教職員の評価

・　どの質問に対しても 70%の肯定的回答だったが、割合は昨年度と比較すると全体的に低下していた。
・　「私は基礎基本を定着させるための学習や、授業に主体的、対話的な活動などを取り入れるように心がけ、常にわかりやすい授業をめざして工夫している」「私は、授業中、児童が話を聞いているかどうか、確認するように心がけている」の質問に対して肯定的回答が高い一方、「私は、毎日適度な量をこまめに宿題とし、家庭学習の習慣づけを図っている」「私は、児童の観察メモやノート点検等を資料化するなど、客観的な評価を心がけている」の肯定的な回答は低かった。「主体的、対話的で深い学び」につなげる授業は行っているが、評価については苦慮していることがうかがえる。

5　成果と課題

≪成果≫

（1）　児童・保護者・教職員アンケートの結果から、各項目の肯定的評価の数値が高く、学校教育活動が児童にとって充実したものであり、自己肯定感の高い児童が増えている。まだ、コロナ禍の制限はあるが、教職員の学習指導や生徒指導への対応について保護者からの理解も得られていると考えられ、教職員もそれを実感していると判断できる。今後も、学校と家庭・地域との連携を積極的に行い、安全・安心で開かれた信頼される学校づくりに努めていく。

（2）　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、児童個々の考えをつかみ、思考を揺さぶる言葉かけや児童相互の対話をつなぐ働きかけを工夫しながら、授業展開に取り組んできた。ICT 機器（タブレット端末）を活用した指導法による授業の工夫や改善に努めた結果であると考える。今後さらに、子どもたちが学ぶことに興味・関心をもち、見通しをもってねばり強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて進めていく。

≪課題≫

（1）　「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、授業においては聞く力が育ちつつあるものの、児童も教職員も学び合いについて、見通しをもったり振り返ったりすることなどに苦手意識があると感じている。

（2）　悪口やいじめを見逃さず、一人一人を大切にした指導を心がけ、互いに認め合う教育活動を進めたことにより、子どもたちが安心して学校での生活を送ることにつながっていると考えるが、表面化していない問題を抱えている場合も考えられる。

6 改善策

（1）　「自ら考え、共に学び合う学級・授業」を推進するため、教員の力量向上に向けて、研修の充実を図る。校内での研究授業の計画を立て、教員同士が互いの授業から学び合うことのできる環境を整える。

（2）　気になる児童についての情報交換を常に行い、気軽に相談できる雰囲気を作り、職員間の連絡を密にするとともに、学校生活アンケート・Q-U アンケートの結果や教育相談を通して、児童の些細なサインを見逃さないように努める。また、児童理解のための優れた外部講師を招き、校内研修を実施する。さらに、日頃から保護者に対して丁寧に細やかに連絡を行うなど、学校と家庭との連携を密にして教育活動を進めていき、子どもたちにとって「楽しい学校」をめざして学校づくりを進めていきたいと考える。